

社会教育主事有資格教員の活動事例

2 地域に生かす

2－（１） 学校から地域へ その１

★社会教育の手法を活用した有資格教員の熱意あふれる取組が学校開放講座を成功に導き、そして、生徒と地域を双方向でつなぐ活動にまで発展している。

黒羽高等学校 津久井久美子 教諭

【活動の概要】

黒羽高等学校は、地域と共に生きる学校づくりを目指し、様々な取組を行っている。そのうちの 하나가、学校開放講座「アカデミアとちぎ」である。今年度は、「黒羽の記念碑～歴史と文化を探る～」をテーマに、旧黒羽町内にある主な記念碑を見学し、その解説を行った。講師は黒羽高等学校の職員が担当し、地域の方々に好評を博した。

この「アカデミアとちぎ」の成功の鍵を握っているのが津久井教諭の活躍である。チラシやポスターを作成し、公民館や保護者へ呼びかけたり、広報紙や新聞等のメディアを活用しながら広報活動を展開した。また、講師や記念碑管理者との綿密な打合せを心がけた。これらの事前準備が功を奏したといえる。会場設営、受付、司会進行、そして記録など、前日から当日にかけてもできる限り汗を流した。さらに、受講証や修了証の発行など、学習成果の認証も学習者から喜ばれた。このような、多方面への気配りと周到な準備、そして熱意あふれる取組が黒羽高等学校の「アカデミアとちぎ」を成功に導いた。

学校と地域を結ぶ津久井教諭の実践は、「アカデミアとちぎ」だけにとどまらず「総合的な学習の時間」において、地域の幼稚園・小学校・老人福祉施設等との交流や奉仕活動を実施したり、地域の高齢者を学校に招いての「寿大学」を実施するなど、生徒たちの活動にまで発展している。



「アカデミアとちぎ」の講師と打合せを行う津久井教諭

アカデミアとちぎ学校開放講座

学校の持つ施設・設備、教職員の持つ優れた知識・技術を地域の人々に開放し、地域の人々に学習機会を提供すると共に、地域の人々に学校を理解していただくことを目的に行われている県の事業。

社会教育主事有資格教員の活動事例

2 地域に生かす

2－（１） 学校から地域へ その２

★有資格者の教頭が教職員と生徒そして地域をつなぐコーディネーターとなって、学校の教育機能を地域のために生かし、それが生徒にとって学校だけでは得られない学びにつながっている。

宇都宮北高等学校 澤田 実 教頭

【活動の概要】

宇都宮北高等学校では、学校開放講座である「アカデミアとちぎ」、グループホーム「うつのみやファミリー」との交流、野沢養護学校との交流活動を行っている。

「アカデミアとちぎ」では、グローバルエデュケーションをテーマに参加型の国際理解講座を提供し、参加者に喜ばれた。また、交流活動においては、北高生が「うつのみやファミリー」の納涼祭やのざわ養護学校の運動会、夏祭りなどのお手伝いをしたり、北高祭に招待するなどを行い、交流先の入所者や児童生徒そして、その家族の方々にまで好評を得ている。

澤田教頭は、これらの活動のコーディネーター的な役割を担ってきた。情報を集めながら地域のニーズをとらえ、地域との総合調整を行いながら、教職員と生徒の力を最大限に引き出すことによって、学校の持っている力を地域に届けている。

実践のポイントは、教職員や生徒の活動により地域の方々に喜んでもらうことで、結果的に学校だけでは得ることのできない生徒の学びへとつなぎ、生徒のトータル的な人格形成に役立てている点である。例えば、北高の「アカデミアとちぎ」は、受講対象が地域の方々だけではなく、北高生も含んでいる。このような工夫が随所に見られる。

成功の秘訣は、「人と人とのつながりを大切にする事」だという。今後は、学校外活動の単位認定の拡大など、多様な学びに応える可能性にも夢が広がっているようだ。



宇都宮北高校で開催された「アカデミアとちぎ」

2 地域に生かす 2- (1) 学校から地域へ 事例集

- ★前任校では、土日や休業日の過ごし方の参考にと社会教育関係情報を集中掲示する場所をつくり活用した。また、いろいろな過ごし方の例をプリント配布し、家族で話し合ってマイプランを立てる支援をした。現任校でも進行中。
(栃木市立大宮北小学校 関口 喜市 校長)
- ★子どもの体験活動や学習機会、社会教育施設の催し物のチラシを増し刷りしてPTA会員に配布したり、来客用玄関にチラシを置いて、来校者が自由に持って行けるようにした。
(大田原市立両郷小学校 高梨 睦 校長)
- ★6年生の総合的な学習の時間に、地域に向けて学校の様子を伝える新聞を発行した。(回覧板で地域に回した。月1回)。
(鹿沼市立津田小学校 中村 ひろみ 教諭)
- ★地域の方々の視点からの学校だより「躍進」を発行する。(毎月1回、町内会を利用して学区内全戸 約2700戸に配布)
(佐野市立葛生中学校 飯田 誠 教諭)
- ★学校教育ボランティアの在り方を保護者に伝えるための資料を工夫し、気軽に協力できる体制を整えた。学校のボランティアガイドブックを作成中。
(佐野市立石塚小学校 神戸 浩子 教諭)
- ★第2土曜日を4回使った「ITキッズ講座」を実施した。お父さんの会、地域との共催でとてもネットワークが広がった。さらに、「友遊ネットワーク宮の原」が独自にIT講座を立ち上げ、協力させてもらった。
(宇都宮市立宮の原小学校 宮澤 文洋 教諭)
- ★地域の指導者と連携し、学校教育の中でお囃子を伝承・指導している。特設の郷土芸能部を設置し、練習会を中心に活動している。また、山あげ祭りはもとより地域のイベントなどで演奏を行い、活動の幅を広げている。
(那須烏山市立烏山中学校 安藤 育夫 教諭)
- ★地域に伝わる太鼓サークルが以前はあったと聞き、学校のクラブ活動の中に位置づけ、2年間活動した後、地域の活動へと戻していった。
(那須塩原市埼玉小学校 和田 淳子 教諭)
- ★地域のボランティア団体と地域を流れる河川の清掃に生徒を参加させ交流を深めた。毎年恒例行事となっている。
(益子町立益子中学校 櫻井 輝之 教諭)
- ★学校での総合的な学習に地域との連携(高齢者)を図り、生徒の地域への所属意識を高めたり、地域を高めたり、地域の教育力を生かした活動ができた。
(小山市立絹中学校 星 育夫 教諭)
- ★PTA(渉外)と生徒会の連携によるアルミ缶回収・車椅子との交換・施設への寄付。学校祭に中学校(吹奏楽)との交流を行った。
(宇都宮南高校 柴山 陽子 教諭)
- ★特別養護老人ホームでの吹奏楽部、JRC部、福祉委員会、生活委員会が連携したコンサートを催している。また芳賀日赤で、吹奏楽部に代わって、合唱部が加わったメンバーでのコンサートを行っている。
(真岡女子高校 茂垣 真司 教諭)